

湖南省防災士連絡会 防災士インタビュー Vol. 2

令和4年9月18日、本日は岩根西区の防災士としてご活躍中の、牧田聡美(まきた さとみ)さんにお話しを伺いたと思います。牧田さんは女性防災士として女性ならではの感性や過去のボランティア活動の経験を活かし、岩根西区の防災活動で男性と混じりながら大変ご活躍されています。牧田さん、よろしくお願い致します。



山羊のユキちゃん♥

Q. 自己紹介をお願いします

岩根西区の防災士の牧田と申します。
動物が好きで、現在、山羊、犬を飼っています。
山羊を飼い始めてから散歩時近所の方々が声をかけてくださり地域コミュニティが広がったと喜ばしく思う今日この頃です。

Q. どうして防災士になろうと思われましたか？

以前の職場で震災時、ボランティア活動に何度か各被災地に行く事があったのですが、知識が有り無しだと有ったほうがいと、自己のスキルアップのためにも防災士になりました。

Q. 防災士として得た知識・技能を今後、どのようにして活用していきたいですか？

防災士として得た知識・技能を活用する事が無い事が一番ですが、「有事」の際、活用できるよう日頃から情報を気にしながら、シュミレーションしながら『備えと構え』で減災を目指し、地域の方々へ防災・減災に関する啓発活動をしていきたいと思ひます。

Q. ご自身で被災された経験がございましたら、お聞かせください

私自身はありませんが、妹が神戸に嫁いで2ヶ月後、阪神淡路大震災があり、夕方まで連絡が取れず心配することしか出来ませんでした。
数日後、被災地へ行き、一変した景色に声も出ませんでした。

Q. 2011年の東日本大震災のボランティアに実際に行かれたとお伺いしましたが、その時の様子及び活動内容をお聞かせ下さい

東日本大震災1ヶ月後に、滋賀県の災害支援ボランティアバスに参加し、宮城県亘理町へ行きましたが、自分の肉眼で見た光景に改めて現実の被害状況を感じ、復興には時間がかかるだろう、自分に何が出来るだろうか？様々な事が頭をよぎりました。車が木に立てかけるように引っかかっていたり、どこが河川だったか分からない程、土砂が一面に広がっていて、水の怖さ、大切さを同時に感じました。活動内容としては神社の被災現場を復旧作業しま

した。男性は木に倒れかかった車の撤去や土砂運び、女性は紙器、食器の洗浄等をしました。小雨が降ったり余震のある時は自助を認識しながら二次災害を起こさないよう活動していました。帰路につく時に被災者の方々が「遠方から来てくれてありがとう、復興したら又来て下さい」と言って頂き、災害が起きたからこの人と出会えた、起きてしまった過去は変えられないけれど、未来を変える事は出来ると思ひ被災した人達に対して私たちは何が重要なのかという事を改めて考えました。一人の力は小さくても数十人、数百人となれば大きな力になる、土砂運び等だけがボランティアではないと思ひます。東北へ旅行する、その土地の名産品を購入する等、少しでも力になれることを続けてたいなと思ひます。



東日本大震災での活動風景



紀伊半島大水害での活動風景（写真右 牧田さん）

Q. 2011年の台風12号による紀伊半島大水害でもボランティアに行かれたとお伺いしましたが、同じくその時の様子や活動内容をお聞かせ下さい

この時は那智勝浦町に行きました。一泊二日で1日2～3時間の活動でしたが、東北同様、一瞬でそれまでの風景を変えてしまう水の怖さを感じ、天災には適わない人の無力さを痛感しました。活動内容は床上浸水した家が多く、床下の泥の掻き出しや仏壇の洗浄、水分を含んだ畳を運んだりしました。帰り道で温泉に入り、被災地にお金の循環、これもボランティアかな？と思ひながらボランティア活動の疲れを癒し、ほっこりしたのを覚えています。

Q. 現在、実際に取り組みられていることがありましたらご紹介ください

岩根西区の防災チームのメンバーとして打合せに参加したり、防災（避難）訓練時に参加していますが、コロナ禍のため、中止になったり取組みが出来ていない現状です。

Q. 防災士を目指す方への一言、地域住民の方へのお願いなどはありますか

防災士と言うと男性の方が多いのですが、女性ならではの目線で防災士を目指す方が増えれば良いなと思ひます。
地域住民の方も男性・女性としてではなく防災士として受け入れてもらえればと思ひます。

Q. 今後の課題、抱負をお聞かせください

今後の課題として防災士の高齢化があげられると思ひます。
抱負としては「有事」があった際、速やかに初動行動出来る様自己研鑽していきたくと思ひます。

ありがとうございました。